

[訂正告知]

『日本医史学雑誌』第56巻第3号に掲載の岡田靖雄著「3. 大塚恭男先生の思い出」において、誤りがあり訂正したい旨著者から申し出がありましたので、下記のように訂正いたします。

449頁, 左, 下から7行目

(誤) 日高六郎先生

(正) 日高三郎先生

451頁, 左, 上から10行目

(誤) 高瀬清先生

(正) 川瀬清先生

編集後記

必要があって、栄養学史の書物を読んだ。著名な生化学者の島園順雄が書いた『栄養学史』(東京:朝倉書店, 1978)である。栄養学の歴史について、古代オリエントから現代まで、人名と科学的な業績を追った詳細な書物である。

この本は、ネット上で手ごろな価格で出回っている古書で手に入れたのだが、本を開いてちょっと驚いたことがあった。届いた古書は、学生の書き込みが入っている、大学で授業に使われた教科書の古書だった。授業の年代や講師についての詳細、所有者がどんな学生だったのかはわからないが、出版年代から察するに、おそらくいまから30年ほど前の授業だろう。普通の古書だと思って買った本が、たまたま、かつての大学教育で行われた「医学史」の授業を垣間見させてくれる史料になったという不思議な体験をした。

学生の書き込みがあるから、本書のどこが学生によって重点的に読まれたか、あるいは講師がどこを強調したかということ推測できる。たとえば、古代から現代までの医者・栄養学者の「人物評伝」という項目があるが、これをマスターすることが課題として提出されたい。何人かの名前に赤線が引いてあり、「読む」と鉛筆で書き込みがあり、その横に、「名前・年代・何を研究したか・どの国の人か、ノートにまとめる」と書かれている。それを反映して、この学生は教科書に赤線を引いている。たとえば、「ビタミン」という言葉と欠乏症の概念を作ったカシミール・フンクは、生没年に赤線、ポーランドのワルシャワに生まれたことに赤線、そして「ビタミンの発見者」に赤線が引かれている。イギリスのフレデリック・ホプキンスの項目をみると、生没年に赤線、「生化学者」に赤線、「1861年英国イーストバーンに生まれた」に赤線が引いてある。脚気研究でノーベル賞を受賞したエイクマンは、生没年、「オランダの衛生学者」、そして「オランダの小村ニイケルクで生まれた」に赤線が引いてある。

生没年や出生地に強調の赤線が引かれているのに対し、重要な部分には赤線が引いてない。ホプキンスの項目では、「副栄養素」の概念が書かれている部分はスルーされている。エイクマンについても、ニワトリの白米病研究や米ぬかの予防効果に関する箇所はスルーされている。結局、赤線が引かれているのは、生没年と生まれた場所の固有名詞をはじめとする、医学史を教室で学生に教える目的は何かという観点からすれば、はっきりいってどうでもいいことばかりである。これは、この授業を取った学生がとんでもなくピントを外して勉強していたのか、それとも、教えた講師が医学史を教える意味を考えたことがなかったのか、どちらかはよくわからない。もし、エイクマンがニイケルクで生まれ、ホプキンスがイーストバーンで生まれたことを学生に覚えさせる授業をしていたのなら、この学生は、昔の医者の生涯についての枝葉末節を研究してそれを覚えさせているのが医学史という学問だという印象を持って卒業していったのだろう。そのような教育を受けた学生が、現在、この学会の会員としてこの雑誌を読んでいる可能性は高いだろうか、それとも低いだろうか。

(鈴木 晃仁)